

【第3話】店が乗っ取られる日

Shippori Mincho

～曖昧な「手当」が生んだ共犯関係と、「辞めます」という核兵器～

Noto Sans JP

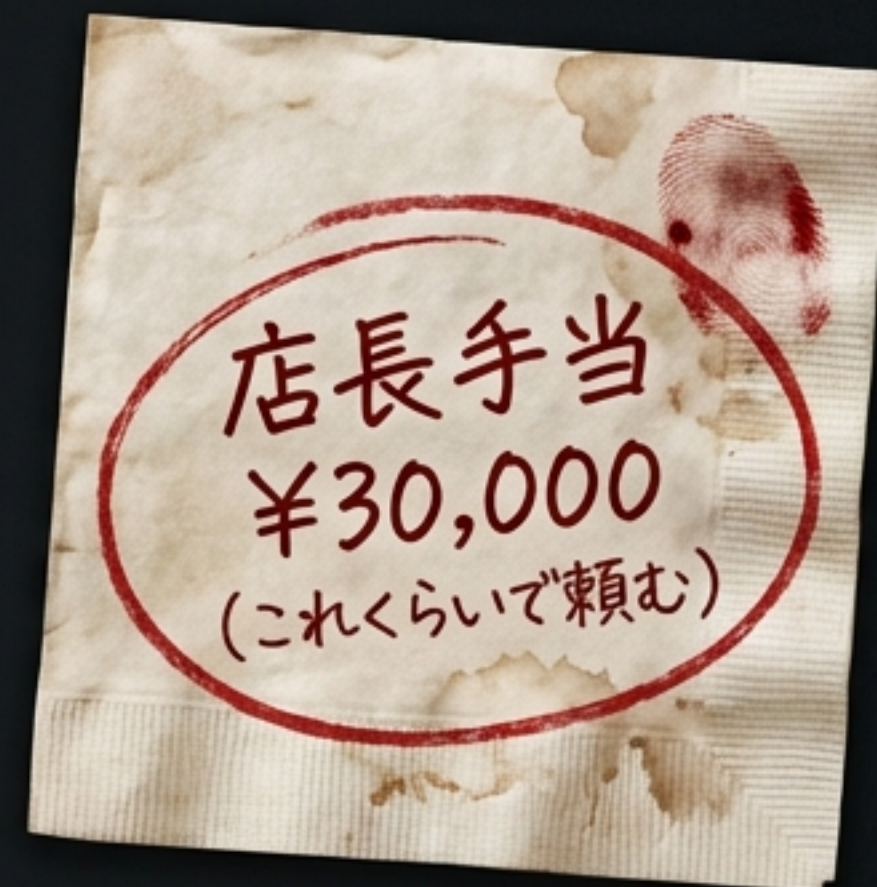
有限会社 吹田総業 | <http://fkt-office.com/>

「善意」よりも恐ろしい、 「曖昧な金」という毒。

前は「善意へのタダ乗り」の危険性を話しました。
しかし、現実はずっと複雑です。
私は完全にタダで働かせていたわけではありません。
「店長手当」のようなものを渡してました。
ですが、この「曖昧な金」こそが、
実は一番の毒だったのです。

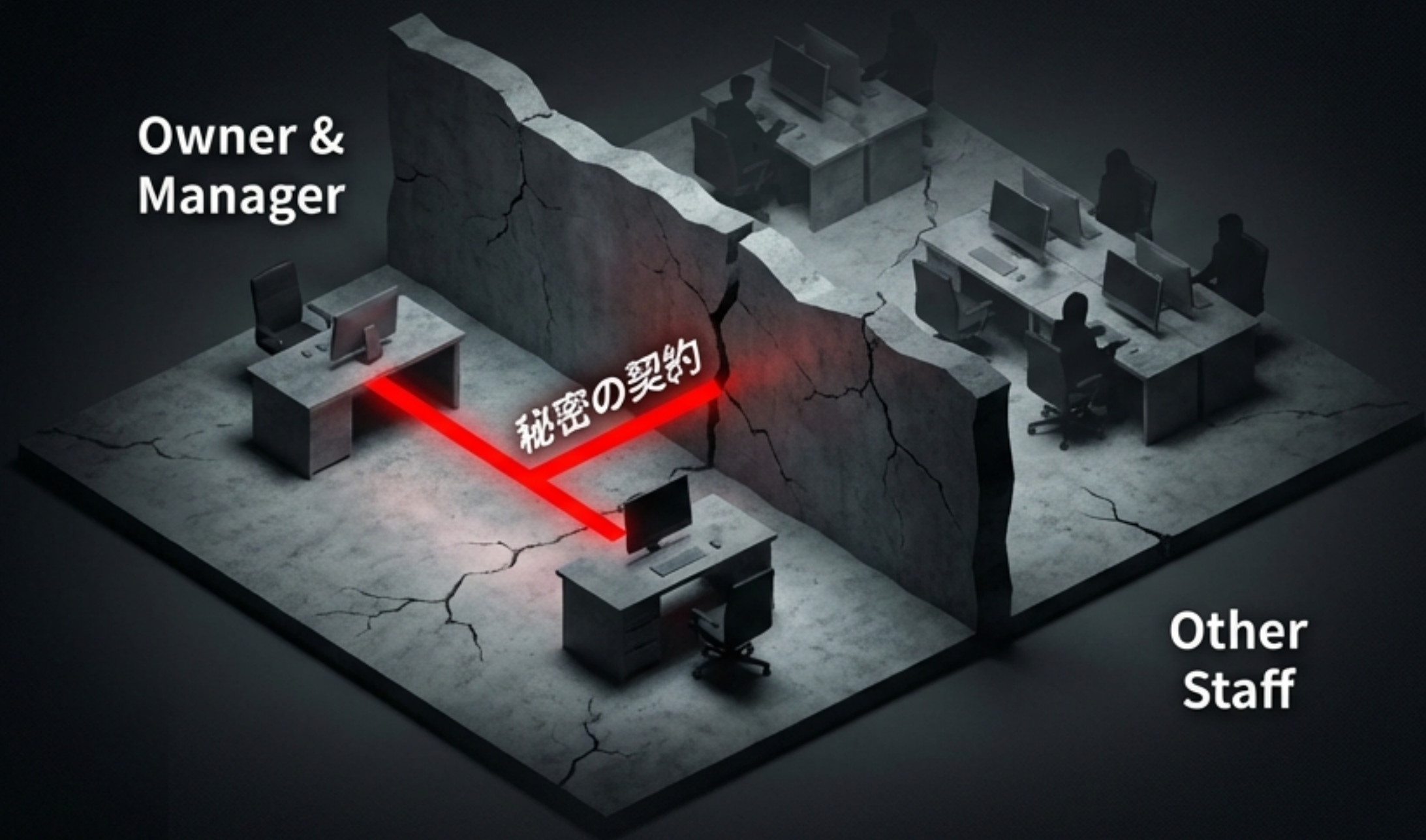


ドンブリ勘定の罫：経営者の「線引き」が命取りになる。



残業代として払えば、金額は青天井になります。
経営者としては、どこかで線を引きたい。
だから「これくらいで頼むわ」と、数万円を渡してしまう。
これがすべての間違いの始まりでした。

誰にも言えない「秘密の契約」。



金額に根拠がないから、他のスタッフに説明できません。論理的な計算ではなく、感情的な「頼み」で渡した金は、必然的に「秘密の契約」になってしまいます。組織の中に、公にできない領域が生まれた瞬間です。

時給数百円の衝撃。

$$\begin{array}{l} \text{手当} \\ (30,000\text{円}) \end{array} \div \begin{array}{l} \text{残業時間} \\ (200\text{時間}) \end{array} = \text{150円}$$

[時給換算]

スタッフも最初は納得します。しかし、家族に指摘されて気づくのです。

「この金額、時給換算したら数百円だぞ」と。

その瞬間、感謝は「搾取されている」という被害者意識へと変わります。

「割に合わない分は、好き勝手やって回収する」

彼らはこう思います。

「給料が見合わないのだから、その分は自由に行動することで元を取らせてもらおう」と。

低い報酬が、逆に彼らに「免罪符」を与えてしまったのです。

- 🕒 遅刻や欠勤の正当化
- 💬 指示の無視
- 🗑️ 店舗の私物化

オーナーを沈黙させる「共犯関係」。



オーナーにも「安く使っている」
という後ろめたさがあるから、
強く言えません。
叱るべき時に叱れない。
正すべき時に正せない。
この「**いい加減な関係**」が、
店舗乗っ取りを加速させました。

「辞めます」という核兵器。

辞めます

ついに是正しようとした時、突きつけられる言葉。

それは、人手不足の現場において経営者を即死させる核兵器でした。
この言葉を恐れるあまり、経営者は店舗の支配権を完全に失うのです。



土下座か、過労地獄か。



屈服



過労地獄

私は土下座を拒否し、自らが現場に立つ「過労地獄」を選びました。
その地獄の中で、私は悟ったのです。
人の善意や、曖昧な金に頼る経営は、いつか必ず破綻するということを。

地獄で悟った「人に頼らない経営」の極意。

感情や精神論、そしてドンブリ勘定。

これらを排除した先にしか、本当の自由はありません。

「データはAI、決断は社長」

次回、完結編です。

動画では語りきれない、ディープな経営ノウハウ。

この話の続きや、具体的な解決策はすべて
オフィシャルホームページ、またはNoteの
「社長の着想日誌」に書いてあります。
現場のリアルな情報を、包み隠さずお届けし
ます。

<http://fkt-office.com/>

(Click to visit)



吹田総業

有限会社 吹田総業
代表 フキタ カツミ

Official Web: <http://fkt-office.com/>

Note: 社長の着想日誌